様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 24 年 1 月 30 日現在

機関番号：３２４１４
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０５６０５８１
研究課題名（和文） インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの体系化と運用プロセスに関する実証研究
研究課題名（英文） Demonstration Study on the Systematization and Operation Process of the Town Planning Education Using Interview Practice Program
研究代表者
大西　律子（ONISHI RITSUKO）
目白大学・社会学部・教授
研究者番号：５０３３７６３０

研究成果の概要（和文）：
本研究では、1)まちづくり活動に一定の経験を有する住民のレベルアップを目指した「インタビュー実習型まちづくり学習プログラム」に焦点を当て、その設計・運用過程を明らかにするとともに、2)本プログラムが、まちづくり活動に有用なインタビュー調査力や問題解決力等を養成する上で一定の効果があることを実証している。また、研究過程で得た実証データの分析を踏まえ、本プログラムのプロトタイプ化及びその運用マニュアルの策定を試みている。

研究成果の概要（英文）：
This study, focusing on “Town Planning Education Using Interview Practice Program” which aims at enhancing the skills of citizen students with certain level of experiences in town planning activities, 1) attempts to indicate the way the program was designed and operated, and 2) demonstrates that the program generated some effects in enhancing the skills of research interview and problem solving which are helpful in the town planning activities. It also attempts to produce a prototype of the program and the operation manuals, analyzing the demonstration data acquired through the research process.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
度度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：工学、複合新領域、まちづくり
科研費の分科・細目：建築学、都市計画・建築計画
キーワード：(1) まちづくり学習　(2)まちづくり　(3)住民参画　(4) 質的研究
(5) インタビュー　(6)人材養成　(7)アクション・リサーチ　(8)社会教育

１．研究開始当初の背景

近年、地域が独自にその知恵と潜在力を発揮し自立する方向への転換を迫られているなか、官民協働で地域課題を共有し、その解決を模索する動きは、まちづくりへの住民参加を前提とする各種法令の整備やそれを支持する社会的気運の高まりとも相俟って各地で急速な拡大をみせている。しかしながら、官民協働体制を形式的ではなく実質的に機能させるためには、行政が提案する政策や事業を、住民が受け止めそれらの是非を議論するばかりでなく、住民自らが地域の諸問題に果敢にアプローチし、解決策を立案・提言していくことが求められる。協働型まちづくりを標榜する諸地域では、住民の意欲や能力を、そうした水準にまでどのように引き上げ得

るのかに関心が寄せられており、より有用性のある「まちづくり学習」への要請は高まる一方である。

筆者らは、このような状況を踏まえ、2005年以来、地域の人的資源を高度に整備し、まちづくりの担い手を量的・質的に拡充する処方箋を描く目的で、まちづくり分野以外の周辺領域の知見も幅広く取り込んで、まちづくりに参画する住民の成長モデル（図１参照）を考案した上で、住民の成長段階に即した、まちづくり学習の多様なプログラムの設計・運用を重ねてきている。これまで特に重点を置いてきたのは、まちづくりを担う住民の裾野拡大の意図から、「まちづくり無関心層」（図１のL0）を「初心者」（L1）へ、さらに、「初心者」（L1）を「初級者」（L2）へと引き上げるための学習プログラムの開発である。これらのプログラムについては、さいたま市等の実際のまちづくりの現場で運用を試み、一定の効果があることを検証し、修正を図りながらプロトタイプ化を進めている段階にある。

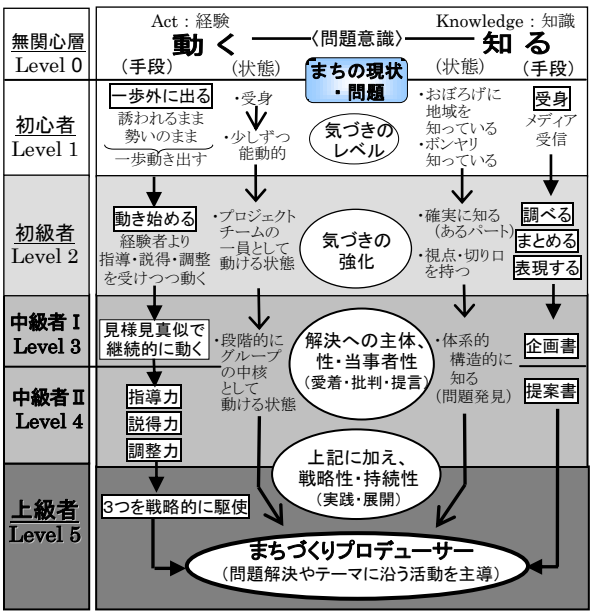


図１ まちづくり学習でターゲットとする5段階の住民像モデル

２．研究の目的

本研究では、新たに、「初級者」（既出図１のL2:まちづくりの現場でプロジェクトメンバーの一員として一定の役割を果たす住民）及び「中級者Ⅰ」（L3：プロジェクトの企画・実施を予備的に担い始めている住民）をそれぞれランクアップさせる学習プログラムを設計し、それを現場で実験的に運用し、その効果と課題を探ることをねらいとする。具体的には、1)まちづくりの現場において初級者及び中級者Ⅰが直面する活動上の課題を抽出し、体系化することによって、当該層がステップアップするための学習課題を見出し、それらをメインテーマに据えた学習プログラムを設計する、次に、2)当プログラムを地域の現場（さいたま市等）で実際に運用するとともにその過程を明らかにし、3)効果と課題をプログラム終了後の対象者（以後、「学習者」と呼ぶ）の意識と行動の変容も含めて検討する。最後に、上記の成果を踏まえて、4)「インタビュー実習型まちづくり学習プログラム」のプロトタイプ化を図り、その運用マニュアルの策定を目指すものである。

３．研究の方法

本研究は、1)当該分野及び周辺領域の既往研究の精査、2)さいたま市等のまちづくり主体（行政、まちづくり任意団体、住民）へのヒアリングを踏まえた内部検討、3)インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの設計とその運用過程における筆者らのアクションリサーチ及び学習者に課した課題・アンケートの分析、4)プログラム終了後における学習者に対する経過観察・ヒアリングから得た質的データの分析、の４つの方法によって進めるものとする。なお、3）～4)で入手した質的データは図２の通りである。

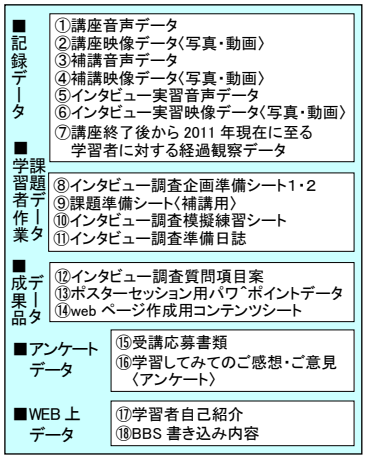


図２ 分析対象とする質的データ

４．研究成果

(1) 初級者及び中級者Ⅰのまちづくり活動上の課題抽出及び体系化

筆者らは、2005年以降、さいたま市等で実施してきた「まちづくり学習講座」の受講経験者（住民）や、筆者らの「まちづくりの担い手養成プロジェクト」に関心を寄せている行政機関や NPO 等中間支援組織の各担当者に対するヒアリングから、まちづくりの現場において、「初級者及び中級者Ⅰが陥りがちな課題」あるいは「中堅的担い手（中級者Ⅱ以上）に求めたい役割・機能」に関連する言質を抽出し、KJ 法によって質的分類を行い、表１の通り、体系化を図っている。

(2) 初級者及び中級者Ⅰのまちづくり学習課題の特定及び序列化

図３は、(1)の諸課題の中身と相互の関係性を検討し、その結果を踏まえて、当該層が、まちづくりの中核的担い手へステップアッ

プするための足掛かりとなる「学習課題」を、４点（ⅠからⅣ）に集約したものである。

この中で、筆者らが、当該層にとって優先順位が高いと判断した学習課題は、自身の関与する活動やプロジェクトはもちろん、該当の地域やまちづくり全般に関する情報・知識を必要に応じて適宜獲得していく「リサーチ手法の習得」である。というのも、筆者らの調査においても、当該層のリサーチ力不足による現状認識の曖昧さが、実際のまちづくり活動に直接間接に歯止めをかけてきた側面が色濃く、これらの層にとって、リサーチ手法を一定程度習得しておくことは、まちづくり活動の中核的担い手へとステップアップする上で必要要件になるものと判断したためである。また、実際、当該層が、仮に学習課題Ⅰ（リサーチ手法の習得）を優先的に達成することになれば、次なる学習課題Ⅱ（意見提示・交換等のコミュニケーションの追求）、学習課題Ⅲ（活動の担い手間・団体間のネットワークの構築）及び学習課題Ⅳ（担い手の確保・育成の推進）も、程度の如何はともかく、順次連鎖的に達成し得ることが予測され、結果、まちづくり活動を現状よりも、主体的かつ中核的な立場から担う「中級者Ⅱ以上」へのランクアップがより確かに期待できる。

なお、リサーチ手法は、社会調査の体系に従えば、定量的調査（質問紙調査等）と定性的調査（インタビュー調査等）に分類されるが、本研究では、筆者らの調査において、当該層の住民や行政・NPO 等の担当者から習得要請の強い「インタビュー調査手法（必要な情報・知識を当該者から直接聞き取る態度・技術）」に着眼し、その習得を目標としたまちづくり学習プログラムの設計・提案を試みている。

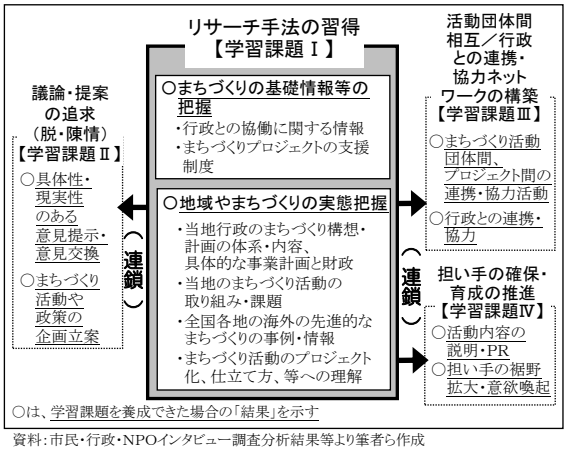
表１　初級者及び中級者Ⅰが陥りがちなまちづくり活動上の課題

課題1：地域やまちづくりの実態に関するファクトファインディングに関する課題
- ■地域の実態やまちづくりに関する基礎的な情報・知識へのアプローチの仕方にやや問題（獲得へ向けた基本的態度・手法の未熟さ、習得不足）
- ■活動を継続している割に、上記の情報・知識が系統立てて蓄積されていない

課題2：地域やまちづくりの実態を踏まえたコミュニケーション（意見提示・交換等）に関する課題
- ■地域やまちづくりへの現状認識が確かになされていない（疑問があいまい、あやふや、不透明のまま放置）
- ■行政に対して、論拠をもって説得的に意見を述べ、提案事項や政策案を系統立てて提言する水準に達していない

課題3：地域やまちづくりの実態に適したネットワークづくりに関する課題
- ■自分が目下属しているまちづくり団体や関与しているプロジェクト以外にはなかなか関心が広げられない、情報も限定的にキャッチしがち
- ■多様な担い手や異なる団体・プロジェクトを相互に繋げ、協力・連携の可能性を探る水準に達していない

課題4：地域やまちづくりの実態に応じた人材発掘や育成に関する課題
- ■所属する団体や関与するプロジェクトチーム内において、発信力・求心力を十分に発揮できない
- ■既存の担い手の意欲を直接的に高め、新たな担い手の獲得・育成に向けた活動の主体になりきれず、消極的



資料：市民・行政・NPOインタビュー調査分析結果等より筆者ら作成

図３　初級者及び中級者Ⅰが直面するまちづくり活動上の諸課題の構造化と学習課題（ⅠからⅡ～Ⅳへの連鎖）

(3) インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの設計・提案

図４は、当該層に最適と判断された学習課題である、「インタビュー調査手法の習得」を目標とし、学習者が、1)現行のまちづくり活動上の問題や課題を探り出した上で（問題を構造化）、2)インタビューを企画・実施し（データの収集）、3)その結果をとりまとめ（データの分析）、4)第三者へ向けて公開するとともに、その内容に責任を持つ（結果の報告・公表）、という４つの段階的課題に取り組むよう設計された、まちづくり学習プログラムである（紙幅の都合上、筆者らの複数の試行を経てプロトタイプ化されたプログラムの最終モデルのみを図４として図示）。

(4) インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの運用とその効果

本節では、紙幅の都合上、本プログラムの運用例を、さいたま市に在勤・在住の、20 代～70 代のまちづくり初級者及び中級者Ⅰ（13 名：男性４名、女性９名）に適用したケースのみ取り上げ、概説する。本ケースでは、図４で図示したプログラムを約２週おきの全７

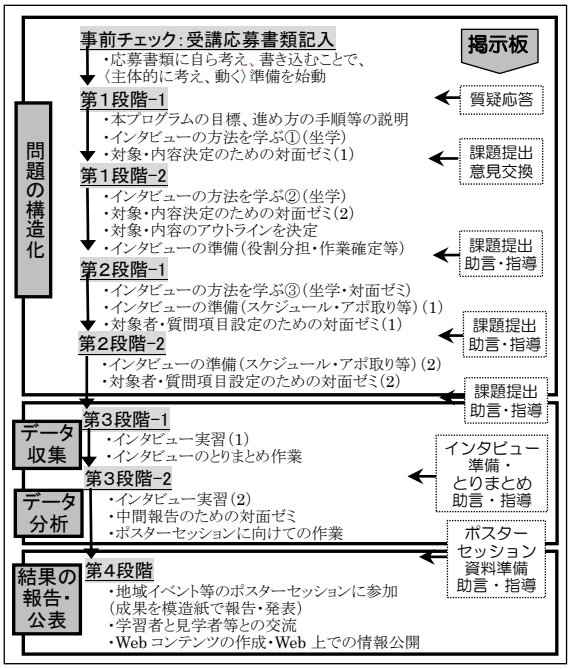
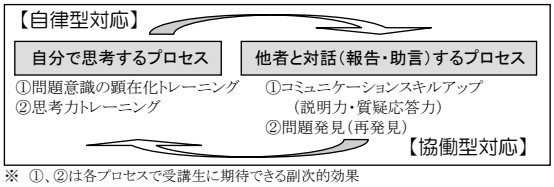


図４　インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの全体構成

回講座によって運用し（筆者ら 2 名が講師、他 3 名が助手・記録担当）、学習者の経過観察データを含む質的データ（既出図 2）を用いて諸効果を測っている。

第１段階では、インタビュー調査の企画の前提として、学習者が、まちづくり活動で目下直面している問題群を洗い出し、それらの解決を目的に、自らインタビュー調査に主体的に取り組もうとする態度の養成までが目標とされた。

２回の講座を通じて、学習者は、講師側との対面ゼミ（図 5）を軸に、活動上の諸問題に単独で対峙する「自律的思考」と、そのことに関する講師側との「対話」（報告・助言）を繰り返すことで、上記の学習目標をほぼ達成している。但し、問題を容易に発掘し、その解決に向けての覚悟を早くからのぞかせた学習者が認められた一方で、問題への対峙やその整理に著しく時間を要す、あるいは、問題の認識化が解決への覚悟の着火には直接連動しない学習者も存在し、問題の受け止めや対処の仕方には学習者間で時間的かつ質的差異が生じる結果となった。しかし学習者は概ね、当段階を、「従前のまちづくり活動を改めて直視する好機」であり、「活動上の問題の本質に冷静に目を向け、対処法を実践的に考え始める機会」になったと振り返っており、当段階は、学習者にとって、まちづくり活動の内省と問題発見を促す有効なプロセスとして機能したと総括できる。



※ ①、②は各プロセスで受講生に期待できる副次的効果

図 5 対面ゼミで学習者に促した自立的思考と対話（報告・助言）のサイクル

第２段階では、学習者が、第１段階で見出した自らの問題意識に従ってインタビュー調査を企画する（対象の特定・質問の設定）までが目標とされた。

学習者は、第１段階と同様、対面ゼミやそれから派生する学習者同志の議論の場を通じて、自らのまちづくり活動上の問題群に改めて立ち返り、それらを構造的に捉えた上で、問題解決に資する情報や知識の枠組み、項目の洗い出しを試み、調査企画を概ね完了させている。但し、当段階での学習者による作業の精度は、問題解決に向けた当事者意識の加減に強く左右される傾向が認められ、講師側には、対面ゼミを断続的に展開することによって、学習者個々の当事者意識（「問題を解決するのは自分」とする意識）を喚起する配慮が求められた。学習者は、後に、「質問項目の作成は自分の問題意識を質す作業であり、大変苦慮した」、「質問項目や対象者を設定する過程で、活動上の問題に正面から向き合う覚悟が芽生えた」と述べており、当段階が、学習者にとって、日頃のまちづくり活動への内省をさらに深め、また、直面している問題の本質を見極め、構造化し、その問題解決に当事者意識をもって臨む態度を、第１段階より、より強固に養成する場になったと総括できる。

第３段階では、学習者が、インタビュー調査を実施し、その結果を集約し、咀嚼するまでが目標とされた。

学習者は総じて講師側の支援を得て個々に実査に漕ぎ着けており、対象者から、自らが直面している問題の解決に有効な情報や知見を引き出すことに成功している。加えて、インタビュアーとして対象者に問題意識を質すことで、受け身ではなく主体的・追求的構えや、対象者との間に信頼関係を育むといった副次的効果も確認されている。また、その結果の集約・咀嚼作業を通じ、対象者の言説を改めて聞き返しては自身のまちづくり活動への内省・省察を繰り返し、結果、今後の活動のありように新たな道筋やヒントを見出し、意欲をみなぎらせていく様子も認められている。学習者も、「対象者に向き合う過程で問題解決へのヒントが得られ、より貪欲に多くを学び、動きたいとする欲求が湧いてきた」、「先達者と出会い、関係性を築けたことが何よりの収穫」と振り返っており、当段階が、学習者にとって、問題解決の場として機能しただけでなく、まちづくり活動において必要とされる主体性・追求性及び人的ネットワークを体験的に獲得する場になったと総括できる。

第４段階では、学習者が、第３段階で実施したインタビュー調査の結果を、より集約・咀嚼して、ポスターにとりまとめ、公共の場（地域イベント等）において発表し、さらに Web 上で公開するまでが目標とされた。

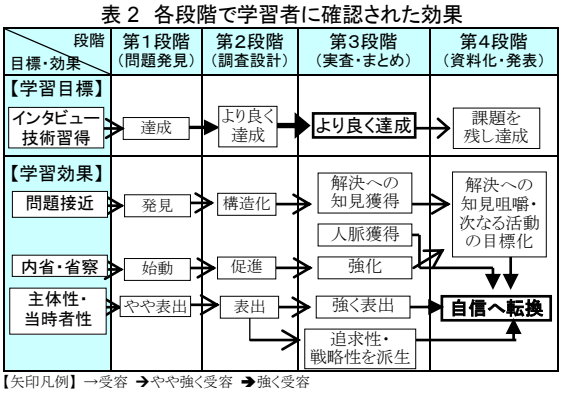
学習者は個々に、講師側の技術的支援を得て、公開用のポスターや Web コンテンツを完成させ、前者については、地域に開かれた各種イベントの場で、また後者については、専用の Web サイト上にて、広く情報発信するところまでをやり遂げ、目標を達成している。また、一連の工程を通じて、学習者は、「基本的な伝達技術の一端を会得できた」としつつ、「対象者の発言を自分の活動に照らして、より確かに咀嚼でき、今後の活動のヒントを得ることができた」とも振り返っており、学習者にとって、当段階が、伝達技術を学ぶだけではなく、これまでのまちづくり活動や今後の活動のあり方への内省・省察をより促し、新たな活動目標を見出す作用に働いたと総括することができる。

(5)本研究の結論と今後の展望

① プログラムの運用から導き出された結論

表 2 は、学習者の各段階における学習目標の達成状況や学習効果の出現傾向をまとめたものである。まず、学習者は、各段階での学習目標をほぼ達成し、より高度なまちづくり活動に有用なインタビュー調査手法への技術的理解を実践的に深めている（表 2 の学習目標欄）。同時に、上記の目標を達成しながら、まちづくり活動上の「問題へ接近」し、これまでの活動に対する「内省・省察」も繰り返し、最終的には問題解決に向けての情報や知見を得て、次なる活動の道筋を見出している。加えて学習者は、一連の過程で、活動上の問題を自ら解決に導こうとする主体性や当事者性、さらにはそれらを、よりよく解決しようとする追求性や戦略性をも養成しつつ、今後のまちづくり活動への自信を改めて見出し、深めたものと総括できる（各学習者が、本プログラムを通じて確認に至った問題意識と問題解決へのヒントは表 3 参照）。

表 2 各段階で学習者に確認された効果



【矢印凡例】→受容 ➔やや強く受容 ➔強く受容

表 3 学習者がインタビューの企画・実施で得た成果
（まちづくり活動上の問題の確認とその解決へのヒントの獲得）

学習者		確認に至った問題		獲得に至った問題解決へのヒント	現在
中級者 L3	1	イベントの持続性	➔	身の丈（実施体制・予算・住民主導等）での継続	◎
	2	コミュニティ・ビジネスによるまちづくり	➔	i 市場の恒常的把握・開拓 ii 目標を共有できる仲間探し（この指とまれ活動）	◎
	3	人的資源の発掘・連携	➔	ネットワークの核となるメディア開発	◎
	4	地域の歴史的建造物の保存・魅力発信	➔	i 先行地域や専門家とのネットワーク構築 ii 地元行政・企業・大学への継続的な働きかけ	◎
初級者 L2	5	公共施設（博物館）を核としたまちづくり	➔	i 市民ボランティアを媒介した戦略立案 ii 施設と既存イベントとの連携・協力	◎
	6	スポーツを核としたまちづくりの展開	➔	i 目標を共有できる仲間探し ii 既存イベントとスポーツをリンク	◎
	7	活動における自分の役割への戸惑い	➔	i プロデュースの役割は必要不可欠かつ不足気味 ii プロデュース能力は経験の蓄積で養成	◎
	8	まちづくりにおける中高年世代の役割	➔	i 中高年の情報技術向上サロンの必要性 ii 中高年ネットワークの整備の必要性	△
	9	まちづくりにおける市民の意欲減退	➔	i ボランティア相互の交流による意欲向上 ii 既存イベントでの観光ボランティア	○
初級者 L1	10	CSRによるまちづくりの可能性	➔	i 企業人の視点拡大の現場として地域を再認識 ii 地域との接点を求める中で企業の役割を発掘	○
	11	河川流域の親水化と子どもの居場所作り	➔	i 実現に向けての情報収集、仲間づくりの重要性 ii 現状把握を踏まえた行政への段階的接近	△
	12	まちづくり活動への参画方法	➔	i 参加経験から参画方法を見出す ii 考えて動くことの繰り返し	◎
	13	地域への関心喚起	➔	日頃の興味関心からまちづくり活動へ接近	○

※2011 年現在の学習者の状況とは、◎＝発展型継続、○＝やや発展型継続、△＝やや不安型継続を表わす。
※上記の「問題」及び「問題解決へのヒント」は簡略化して掲載

実際、本プログラム終了以降 2011 年現在までの筆者らの経過観察によれば、学習者の多くがまちづくり活動を発展的に継続させており（既出表 3 の「現在欄」参照）、インタビュー調査手法をまちづくり活動の現場で常時意識的に活用していることも確認されている。中には様々なまちづくりの現場への取材や参画を続けながら、その経験で得た情報・知見・人脈を生かして担い手に対する中間支援的な役割やリーダー的役割を担い、中核的リーダー（既出図 1 の中級者Ⅱ）として活躍し始めている者も複数出現している。

総括すれば、本プログラムは、学習者が、実際のまちづくりの現場で直面している問題群にいかに対処すべきかについて、その解決の糸口や、今後の活動指針を見出す場として有効に機能したといえ、その意味では従来のまちづくり学習で課題視されてきた「学習と現場の乖離」を積極的に解消し得る実践性の高い学習装置と評することができる。また、まちづくり活動をより中核的な立場から牽引する担い手に求められる態度や構え（主体性・当事者性・追求性・戦略性）、加えて技術（インタビュー調査力、問題解決力）を獲得できる、まちづくり経験者のさらなるレベルアップを効果的に誘導するプログラムと捉えられる。

官民協働時代にあって、まちづくりの実質的担い手の育成が求められるなか、担い手の裾野を広げる取り組みとともに、既に活動に着手している担い手（例えば、本研究で取り上げた「まちづくり初級者」及び「中級者Ⅰ」）が、その活動を発展的に継続し、その成果を少しでも実らせるよう支援する手立ても同時に試案されるべきだが、本プログラムのような「学習機会・学習装置」は、正にその一つのありようを示唆するものである。

② ①を踏まえた成果と展望

本研究では、上記の結論に基づき、本プログラムの諸効果を最大化・最適化するための諸条件や課題の総合的検討も加えて、改めて、1)「インタビュー実習型まちづくり学習プログラム」のプロトタイプ化を試み（既出図 4）、同時に、2)本プログラムの運用が想定される地域の現場（まちづくり学習のコーディネータ等）向けにガイドラインを策定するに至っている（後述 5〔その他〕欄の Web にて順次公開）。

今後は、本プログラムの現場への適用を促し、その効果について、範囲を広げて見極めていくことが重要な課題となる。さらに、中・長期的には、当該分野の基礎データを積み上げていくとともに、官民協働時代のまちづくりの実質的な担い手育成に向けた制度

設計の確立と、各現場でのその効果的運用の包括的支援が緊要な課題である。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 13 件）

①大西律子・富澤浩樹、まちづくりの現場での問題解決を前提とした「まちづくり学習」の設計と運用－インタビュー実習工程を導入した講座の提案－、地域活性研究、査読有、第 2 号、2011、pp.3-16

②富澤浩樹・大西律子、官民協働のまちづくりのための実質的担い手の養成、地域活性学会研究大会論文集、概要査読有、第 2 号、2010、pp.137-140

③大西律子・富澤浩樹、"人形のまち岩槻まちかど雛めぐり（2010）"における官民学協働による交流サロンの試験的運用、日本観光研究学会全国大会学術論文集、概要査読有、第 25 号、2010、pp.399-400

④富澤浩樹・大西律子他、観光まちづくり活動における学生参画システムの構築－さいたま市岩槻区における住民主導イベントにおける学生ボランティアの関わり実績からの提案－、日本観光研究学会全国大会学術論文集、概要査読有、第 25 号、2010、pp.401-402

⑤富澤浩樹・大西律子、観光まちづくり活動への人材供給システムの構築－さいたま市岩槻区におけるまちづくり学習機会の提供実績からの提案－、日本観光研究学会全国大会学術論文集、概要査読有、第 24 号、2009、pp.365-366

⑥大西律子・富澤浩樹、“岩槻まちかど雛めぐり情報サロン”の試験的運用－さいたま市岩槻区における住民主導型イベントでの試み－、日本観光研究学会全国大会学術論文集、概要査読有、第 24 号、2009、pp.367-368

⑦馬場貴志・大西律子・富澤浩樹、大学生の基礎学習段階における“情報収集”学習プログラムへの試み、目白大学高等教育研究、査読無、第 15 号、2009、pp.113-118

⑧大西律子・富澤浩樹、インタビュー調査実習（社会調査士認定科目Ｆ）の設計と運用、目白大学高等教育研究、査読無、第 15 号、2009、pp.119-126

⑨大西律子・富澤浩樹、メディア開発を用いたまちづくり学習の実践と課題-さいたま市岩槻区における親子のためのまち理解副読本開発プログラムの運用過程を対象に、住宅総合研究財団、「住まい・まち学習」実践報告・論文集、概要査読有、第 9 号、2008、pp.107-112

⑩富澤浩樹・大西律子、観光まちづくり学習の運用プロセスに関する研究－さいたま市岩槻区における官学協働による試み、日本観光研究学会全国大会学術論文集、概要査読有、第 23 号、2008、pp.297-300

⑪大西律子・富澤浩樹、インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの基本設計に関する研究、目白大学総合科学研究、査読有、第 4 号、2008、pp.47-60

⑫大西律子・富澤浩樹、高等教育における市民性養成プログラムの検討－インタビュー実習の試験的運用を中心に－、査読無、目白大学高等教育研究，第 14 号、2008、pp.231-248

⑬馬場貴志・大西律子、「自己表現演習」の取り組みを振り返って－現代学生の大学教育アダプテーションに向けた”基礎的な学習プログラム”実践の一考察、査読無、目白大学高等教育研究、第 14 号、2008、pp.195-210

〔学会発表〕（計 6 件）

①富澤浩樹、官民協働のまちづくりのための実質的担い手の養成、地域活性学会研究大会、2010 年 7 月 10・11 日、小樽商科大学

②大西律子、“人形のまち岩槻まちかど雛めぐり（2010）”における官民学協働による交流サロンの試験的運用、日本観光研究学会、2010 年 5 月 26 日、立教大学

③富澤浩樹、観光まちづくり活動における学生参画システムの構築－さいたま市岩槻区における住民主導型イベントにおける学生ボランティアの関わり実績からの提案－、日本観光研究学会、2010 年 5 月 26 日、立教大学

④富澤浩樹、観光まちづくり活動への人材供給システムの構築－さいたま市岩槻区におけるまちづくり学習機会の提供実績からの提案－、日本観光研究学会、2009 年 5 月 30 日、立教大学

⑤大西律子、"岩槻まちかど雛めぐり情報サロン"の試験的運用－さいたま市岩槻区における住民主導型イベントでの試み－、日本観光研究学会、2009 年 5 月 30 日、立教大学

⑥富澤浩樹、観光まちづくり学習の運用プロセスに関する研究、日本観光研究学会、2008 年 11 月 25 日、長野大学

〔図書〕（計 5 件）

①大西律子、インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの体系化と運用プロセスに関する実証研究、平成 20 年度～平成 23 年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究成果報告書、2011

②大西律子（編集監修）、大西律子研究室編集・発行、インタビュー実習型まちづくり学習プログラムの設計・運用マニュアル、2011

③大西律子、メディア開発型まちづくり学習プランの体系化と運用に関する研究、平成 18 年度～平成 19 年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究成果報告書、2009

④大西律子（編集・監修）、目白大学社会学部地域社会学科大西律子研究室編集・発行、メディア開発型まちづくり学習教材集、2009

⑤大西律子（編集・監修）、目白大学社会学部地域社会学科大西律子研究室編集・発行、親子でまちを学ぼうハンドブック(岩槻編)改訂版、2009

〔その他〕

ホームページ等

①http://www.onishi-lab.org/

６．研究組織

(1)研究代表者

大西　律子（ONISHI RITSUKO）

目白大学・社会学部・教授

研究者番号：５０３３７６３０

(2)連携研究者

富澤　浩樹（TOMIZAWA HIROKI）

目白大学・保健医療学部・兼任講師

研究者番号：６０３４８３１５